

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年4月27日

所属・職名	商経学部・教授	氏名	土屋和之
研究課題	事業等のリスクの分析 --- 記載内容の時系列分析 ---		
研究キーワード	事業等のリスク	当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究では有価証券報告書の事業等のリスクを、トピックモデルによってトピックを推定することで記載内容を分析した。特に事業等のリスク全体を1つの文書として分析するのではなく、事業等のリスクをリスク項目ごとにパラグラフに分割し、そのパラグラフを1つの文書として分析することで、おおむねトピックの推定が可能になったと考えられる。推定されたトピックからパラグラフのトピックを決定し、事業等のリスクに、どのようなトピックが記載されているかを明らかにすることができた。さらに、これによって、どのような業種で、どのようなリスクの記載割合が高いかを明らかにすることができた。開示府令の改正によって、事業等のリスクの開示も変わることが予定されている。本研究の手法を用いることで、開示府令の改正のインパクトを分析することができるだろう。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>「事業等のリスクの分析 ―記載内容のトピックにもとづくアプローチ―」, 『千葉商大論叢』, 第57巻第3号, 2020年3月, pp.185-197.</p> <p>3. 主な経費</p> <p>分析のためにデータをどのように準備すれば良いかというデータの前処理に関する資料, どのようにデータベースを構築すれば良いかというデータの管理に関する資料, 自然言語処理に関する資料, トピックモデルを使った会計やファイナンスに関する研究資料の購入に支出した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>千葉商科大学学術研究助成金 個人研究、課題名「EDINET APIによる開示書類データベースの構築」</p>			
(本文は1ページ以内にまとめること)			